

中学校部会

1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
 実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方
 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 日 程

	9:00	9:50	10:45	11:45		13:30	14:30	15:00	16:30				
	8:40	9:40	10:35	11:35	12:35		14:20	14:45	16:00				
受 付	開 会 行 事 (40分)	視 点 説 明	公 開 授 業 (45分)	小 学 校 (50分)	公 開 授 業 (50分)	特 別 支 援 (50分)	中 学 校 (55分)	昼 休 食 憩 (50分)	公 開 授 業 (50分)	高 等 学 校 (15分)	指 導 な が 言 り (全 体) (60分)	授 業 研 究 (4部 会) (60分)	閉 会 行 事

① 公開授業

種 別	学 年	単 元	発 表 者
中 学 校	第3学年	球 技 (ゴール型：サッカー)	門川町立門川中学校 教 諭 徳 永 晃 司

③ ワークショップ型授業研究

部 会	役 職	氏 名
中 学 校	指導助言者	宮崎大学教育学部 教授 日高 正博
	司会者	日南市立南郷中学校 教諭 中屋敷 卓
	記録者	五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校 教諭 丸山 大輝
		延岡市立西階中学校 教諭 徳 淵 喬
進 行	川南町立唐瀬原中学校 教諭 甲斐 一成	

【中学校】第3学年 体育科学習指導案

令和4年11月17日(木) 3校時
 第3学年2組(男子21名・女子17名)
 場所 サンドーム日向
 指導者 徳永晃司

1 単元名 球技 サッカー

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。(知識及び技能)
 - ・ ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、(互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること)ができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。中学校では、これらの学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。

4 生徒の実態

- (1) 運動に触れる楽しさの体験状況
 本学級の生徒は本年度、体づくり運動、水泳、器械運動(マット運動)、陸上競技(短距離走)の学習を行っている。球技においては、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、1・2年次にほとんど経験できておらず、球技の楽しさに触れる機会が少なかった。サッカーにおいても、経験が少ないからか事前アンケートでサッカーを「好き」と答えた生徒は約30%ほどであった。好きと答えなかった理由として、「ルールがよく分からない」「動き方が分からない」「ボールを蹴るのが難しい」「ボールが固くて痛い」などがあり、苦手意識をもっている生徒がほとんどである。学級の中にサッカークラブに加入している生徒は1名のみで、休み時間にグラウンドでサッカーをする姿もほとんど見ることがない。
- (2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況
 「知識及び技能」に関しては、中学校で球技の経験がほとんどないため、技術の名称について知っている生徒が少ない。また、ドリブルやパス、シュートといった個人的技能の習得も不十分である。
 「思考力、判断力、表現力等」に関しては、これまでの学習の中で、課題解決に向けた話し合い活動や、自己や仲間と活動を振り返る中で、良さを伝え合ったり、課題を確認し合ったりする活動を取り入れてきた。しかし、チームで作戦を考えるなどの経験は少ない。
 「学びに向かう力、人間性等」に関しては、互いに認め合い、助け合う生徒が多く、仲間を尊重する姿勢が身に付きつつある。また、集団の一員であることを自覚し、安全面に留意しながら学習を進めることができる。

(3) 体力の状況

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数(人)	18	25	27	11	8	17	19	19	9	2
割合(%)	20.2	28.1	30.3	12.4	9.0	25.8	28.8	28.8	13.6	3.0

体力テストにおいては、本学年の男子で全国平均を上回っているのは「長座体前屈」と「立ち幅とび」のみで、「上体起こし」と「50m走」では、著しく全国平均を下回った。女子においては、全国平均を上回ったのは「長座体前屈」のみで、男子同様に、「上体起こし」と「50m走」が全国平均を大きく下回る結果となった。この結果から、男女ともに、瞬発力と筋持久力を高める運動を取り入れる必要があることが分かった。

5 学習を進めるに当たって

本単元の指導に当たっては、学習内容系統図を参考にし、第1学年及び第2学年の知識と技能の未習得な部分を確認しながら、段階的に第3学年の内容へと進めていきたい。特に第3学年では、「空間」がキーワードとなるので、第1学年及び第2学年で学んだ、空間へ走り込む動きの確認と、次の段階として、空間を生み出す動きに着目させ、この二つの動きの連動によって、ゴール前へ進入することができることに気づかせたい。

オリエンテーションでは、安全に学習を進めるために、授業の約束事や、道具の取り扱いについて詳しく説明した後に、単元の内容に触れる。最初にサッカーの動画を視聴しながら、必要な技術の解説や、戦術についての説明を行い、自分がプレイしている姿を想像させる。また、基本用語については、しっかりと学習カードにまとめ、言葉とプレイが一致できるようにしておく。

単元前半では、サッカーの特性と技術の名称や行い方を学習することとともに、ボール慣れ運動や、ドリル練習を授業の前半に取り入れる。授業の後半に、グループで行う練習を取り入れながら、仲間との連携について考える機会を徐々に増やしていく。その際、タブレット端末を活用しながら、個人の動きを撮影し、動きのポイントを確認しながら、自己分析できる習慣を身に付けさせる。

単元後半では、攻撃側だけではなく、守備側の動きに着目させ、サッカーの守備における原理原則を学習しながら、正規のゲームに近い形の練習を取り入れ、徐々に勝敗を競う楽しさや喜びを味わう経験を積んでいきたい。単元前半と単元後半においては、授業を通して何を学習するのかを明確にしておくことが重要であるため、目的と手段が、しっかりと生徒に伝わるよう、ICTを効果的に活用すること、効率よく生徒の知識と技能の習得につながるように、学習内容を整理していきたい。

単元の終わりには、練習やゲーム、振り返りを繰り返し行い、撮影した動画を参考にしながら生徒自らが課題を見つけ、課題解決の方法を話し合い、仲間と作戦を立てる機会を意図的に設定していく。このことで、高校段階で身に付けさせたい知識及び技能の観点に、よりスムーズにつながるができることと考える。このようにカリキュラム・マネジメントの視点に立ち、系統性を考えた授業を展開することが重要であると考える。

本時の授業に当たっては、学習内容系統図を参考に、小学校段階の「得点しやすい場所に移動し、パスを受ける」という内容と、中学校第1学年及び第2学年の「パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動く」という内容を踏まえた上で、中学校第3学年の「パスを出した後に、次のパスを受ける動きをする」という内容につなげ、技能の習得に迫りたいと考える。

「はじめ」の段階では、狙ったところに正確なパスが出せるように、体の使い方を意識させながら2人組でパターン練習を行い、次の段階で守備者が入っても慌てずにボールをコントロールできるようにする。また、パスを正確に出すことができないと、本時の目標である、パスを出した後の動きにつながらないことをしっかりと押さえておく。

「なか」の段階では、攻撃側2名に対して守備側1名の、攻撃側が数的優位の状況を設定した2対1のシュート練習を行い、パスを出した後にどのように動くことがよりゴールに迫ることにつながるのかを分析する。その際、いくつか動きの例を紹介しながら、実際に2対1を行っている様子をタブレットで撮影し、客観的に見て攻撃側の動きの分析を行う。また、分析の視点をはっきりと伝え、生徒が何に着目すればよいのかを明確にしておく。さらに、ゾーンA～Cの3つのゾーンを設け、Aがフリーパスゾーン、BとCにそれぞれ1名ずつ守備者を配置し、連続して2対1で突破しなければならない状況を作りだし、パスを出した後の動きに連続性をもたせる。

「まとめ」の段階では、本時の目標にどのくらい迫ることができたのか振り返りを行う。また、パスを出した後に、次のパスを受ける動きを入れるときのポイントには何があるのかを押さえる。それを身に付けることで、どのような効果が生まれるのかを考え、次時の授業や単元後半のゲームにつなげていきたい。

なお、単元前半のゲームでは、容易にボールを操作できるように、「レジ袋に新聞紙を詰めたボール」を使用する。また、分析や話し合いを行いやすくするために「コーチングシート」を活用する。

6 単元の評価規準 (●は、本単元の「単元の評価基準」を示している。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
全ての単元の評価規準	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ●球技の各型の各用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ●戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することができ、学習した具体例を挙げている。 ●ゲームに必要な技術と関連させた補助運動を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ●練習やゲーム中の技能を観察したり分析するには、自己観察や他者観察などについて、言ったり書いたりしている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゴールの枠内にシュートをコンクトルすることができる。 ●味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ●守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすることができる。 ●ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。 ●パスを出した後に次のパスを受けることができる。 ●ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れることができる。 ●ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。 ●ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ●自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術について、課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ●選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ●健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ●ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ●チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ●作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ●体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ●球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ●相手を尊重するなどフェアなプレイを大切にしようとしている。 ●作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ●一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ●互いに練習相手になったり仲間を助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ●健康・安全を確保している。
単元の評価規準	<p>①球技の各型の各用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②練習やゲーム中の技能を観察したり分析するには、自己観察や他者観察などについて、言ったり書いたりしている。</p>	<p>①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>②ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。</p> <p>③球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>②相手を尊重するなどフェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>③一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。</p>	

7 指導と評価の計画 (12 時間)

時間		1	2	3	4	5	6(本時)	
指導内容	知					①技術の名称		
	技	①シュート	②ボールキープ				④パスを出した後の動き	
	思・判・表							
	学・人	①愛好的態度 (*健康・安全)		③共生	②公正			
学習の流れ	0	1 挨拶・出欠 確認・健康 観察	1 挨拶・出欠 確認・健康 観察	1 挨拶・出欠 確認・健康 観察	1 挨拶・出欠 確認・健康 観察	1 挨拶・出欠 確認・健康 観察	1 挨拶・出欠 確認・健康 観察	
		ねらい1 ボール操作を身に付けよう				ねらい2 空間を作りだす動きを身に付けよう		
		2 オリエンテーション	2 本時の学習内容の確認 3 ウォームアップドリル	2 本時の学習内容の確認 3 ウォームアップドリル	2 本時の学習内容の確認 3 ウォームアップドリル	2 本時の学習内容の確認 3 ウォームアップドリル	2 本時の学習内容の確認 3 ウォームアップドリル	
	10	3 学習の約束を確認 4 道具の確認 5 ボール慣れ 6 ドリル練習 (2人組) ・インサイドキック	4 ボール慣れ 5 ドリル練習 (2人組) ・インサイドキック ・インステップキック ・ヘディング	4 ボール慣れ 5 ドリル練習 (2人組) ・トラッピング ・リフティング	4 ドリル練習 (2人組) ・インサイドキック ・インステップキック 5 1対1シュート 6 2対1シュート	4 ドリル練習 (2人組) 5 2対1+1 6 動画撮影 7 話し合い活動 8 知識の確認	4 ドリル練習 (2人組) 5 2対1+1 6 動画撮影 (分析を含む) 7 2対2	
	20	・インサイドキック ・インステップキック ・ヘディング	6 2対1シュート	6 2対1シュート				
	30							
	40	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	9 片付け 10 本時の振り返り、次時の確認	8 片付け 9 本時の振り返り、次時の確認	
	50							
	評価	知					①	
		技		①	②			(④)
思・判・表								
学・態					③			
準備物		学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC・コーチングシート	学習カード・ボール・PC・コーチングシート	
カリ・マネ	体育理論			文化的働き	社会性			
	保健	傷害の防止						
	他教科			相互理解、寛容	公正・公平、社会正義			

時間		7	8	9	10	11	12
指導内容	知	②運動観察					
	技		⑤ゴール前のカバー	③空間を作り出す			
	思・判・表			①動きの比較	③多様な関わり方	②マナーや行為	
	学・人						
学習の流れ	0	1 挨拶・出欠確認・健康観察	1 挨拶・出欠確認・健康観察	1 挨拶・出欠確認・健康観察	1 挨拶・出欠確認・健康観察	1 挨拶・出欠確認・健康観察	1 挨拶・出欠確認・健康観察
	ねらい2 空間を作り出す動きを身に付けよう						
		2 本時の学習内容の確認	2 本時の学習内容の確認	2 本時の学習内容の確認	2 本時の学習内容の確認	2 本時の学習内容の確認	2 本時の学習内容の確認
		3 ウォームアップドリル	3 ウォームアップドリル	3 ウォームアップドリル	3 ウォームアップドリル	3 ウォームアップドリル	3 ウォームアップドリル
	10	4 ドリル練習(2人組)	4 ドリル練習(2人組)	4 ドリル練習(2人組)	4 課題解決のための練習(グループ練習)	4 課題解決のための練習(グループ練習)	4 課題解決のための練習(グループ練習)
	20	5 2対2	5 チャレンジ&カバー	5 チャレンジ&カバー	5 リーグ戦	5 リーグ戦	5 リーグ戦
	30	6 マークの三原則の確認 7 チャレンジ&カバー	6 ラインゲーム①(キャッチ)	6 ラインゲーム②(キック)	6 動画撮影	6 動画撮影	6 動画撮影
	40	8 片付け 9 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認	7 片付け 8 本時の振り返り、次時の確認
	50						
	評価	知	②				
技		④	(⑤)	⑤	③		
思・判・表				①	③	②	
態度			①			②	
準備物		学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC	学習カード・ボール・PC
カリ・マネ	体育理論				多様な関わり方		
	保健						
	他教科					規則の尊重	

8 本時の学習（6 / 12 時間）

(1) 本時の目標

○ パスを出した後に次のパスを受ける動きができるようにする。 (知識及び技能)

(2) 本時の評価項目

○ パスを出した後に次のパスを受ける動きができる。 (知識・技能)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【A・B・Cの例】	「努力を要する」 状況と判断される 生徒への手立て
はじめ 10分	1 集合、挨拶、健康観察、体操を行う。	○ 安全に運動できるように健康状態を確認する。		
	2 ドリル練習（2人組）を行う。 ・ パス練習 ・ ボールタッチ	○ ドリル練習は、強さ、方向、タイミングを意識するよう助言する。		
	3 本時のねらいを確認する。	○ 前時を振り返り、3つの動きのポイントについて説明し、ホワイトボードに掲示する。		
ゲームの中でパスを出した後に、次のパスをもらう動きを身に付けよう。				
なか 30分	4 2対1+1（ゲームⅠ）を行う。 ・ 2人1組をつくる。 ・ 2対1+1に参加していない人は、撮影、コーチングを行う。	○ パスを出した後の次のパスをもらう動きができるように、ボール保持者の体の向きや位置、守備者の位置で判断するよう助言する。 ○ パスを出した後に、次のパスを受ける動きが繰り返しできるように、攻撃側がゾーン2に入った時に、攻撃側に対してコーチングするよう参観者に促す。	○ パスを出した後に、次のパスを受ける動きができる。(観察) 【Aの例】 パスを出した後に、次のパスを受ける動きが繰り返しできる。 【Bの例】 パスを出した後に、次のパスを受ける動きができる。 【Cの例】 パスを出した後に、その場でパスをもらおうとしている。	○ パスを出した後、ボール保持者の体の向きや位置を見るように、適宜個別に助言する。 ○ 撮影された動画やコーチングシートを活用しながら助言する。
	5 2対1+1の分析を行う。	○ 分析しやすいように、コーチングシートを活用しながら話し合いを行うよう指示する。		
	6 2対2（ゲームⅡ）を行う。	○ ゲームⅠの反省を生かしてゲームⅡを行うことができるように、コーチングシートの結果を生かすよう助言する。		
まとめ 10分	7 本時の振り返りを行う。 ・ 自分の動きを振り返る。 ・ パスを出した後の動きのポイントを確認する。	○ 身に付けた動きが、今後のゲーム等に生かすことができるよう動きのポイントを確認する。		
	8 挨拶を行う。			

《選択する動き》
・ ワンツー
・ オーバーラップ
・ ドリブルスイッチ

《動きの選択のポイント》
・ ボール保持者の体の向き
・ ボール保持者の位置
・ 守備者の位置

《動きの選択のポイント》
・ ボール保持者の体の向き
・ ボール保持者の位置
・ 守備者の位置

